

中友会の発足
令和6年度の中友会総会において推挙され承認をいただき、副会長を拝命しました。上原富明です。よろしくお願ひいたします。主に庶務担当副会長として、総会・忘年会などを企画・立案し、中友会の目的「会員の親睦と互助を深め、あわせて生涯学習の充実を図る」の目的の最初にある会員の親睦を深める重要な仕事を担当します。その意味からも、会員にどれだけ会に参加していただけるかが大きな課題になってくると考えます。つまり、中友会そのものに会員が所属感を持つていただくこと。中学校校長として苦楽を共にした仲間の会であるという意識を持っていただくことが大事だと考えます。そこで、もう一度、中友会の発足当時を振り返り、僭越ながら中学校教育の原点に立たれた先人の意図をくみ、互いに声を掛け合い、学び合い会の発展に臨みたいと思います。ご案内のように、小学校開校は、1869年（明治2年）。旧制中学校開校1899年（明治32年）、新制中学校開校1947年（昭和22年）。小学校

中友会の発足
令和6年度の中友会総会において推挙され承認をいただき、副会長を拝命しました。上原富明です。よろしくお願ひいたします。主に庶務担当副会長として、総会・忘年会などを企画・立案し、中友会の目的「会員の親睦と互助を深め、あわせて生涯学習の充実を図る」の目的の最初にある会員の親睦を深める重要な仕事を担当します。その意味からも、会員にどれだけ会に参加していただけるかが大きな課題になってくると考えます。つまり、中友会そのものに会員が所属感を持つていただくこと。中学校校長として苦楽を共にした仲間の会であるという意識を持っていただくことが大事だと考えます。そこで、もう一度、中友会の発足当時を振り返り、僭越ながら中学校教育の原点に立たれた先人の意図をくみ、互いに声を掛け合い、学び合い会の発展に臨みたいと思います。ご案内のように、小学校開校は、1869年（明治2年）。旧制中学校開校1899年（明治32年）、新制中学校開校1947年（昭和22年）。小学校



中友会の発足と今後の展望

中友会副会長 上原 富明

より78年後、旧制中学校（現高等学校）より48年後、新しい校種、新制中学校的開校であった。戦後の混乱期、施設・設備・教職員・教材・教具も不十分な中での学校経営、当時の校長先生方のご苦労が偲ばれます。長い歴史を経て進められていく学校・高等学校の先生たちにどの様に相談するか、声掛けすることも困難。いつか同じ苦労をしている仲間が集まり、苦労を語りあつた。それが原点となり、昭和42年、会員400名で結成、発足。「屋上屋」と言わながら、新制中学校的充実した推進発展の土台作りをしていただいたと聞いています。

今後の展望

目的の中にある互助と生涯学習（研修）についても、親睦同様な課題があり、根っこは、同じであると考えます。私は現在主に3つの会に所属しています。①中友会②東京都退職校長会西多摩支部③東京都退職公務員連盟西多摩支部です。どの会も同じ課題を抱えています。財政難と会員の減少です。その中で一番深く関わってきたのは中友会です。というよりも、退職と同時に入会し、当たり前のように一員として関わって来ました。退職年に先輩に声掛けいただき、幹事を3年させたが幹事として復帰し、現在その流れで今回幹事をする上では、バックアップしてくれる同期の仲間・先輩の支援・協力があるから頑張れるのです。ここで、退職公務員連盟「退公連」の課題を例に上げ、中友会の今後の展望を探つてみたいと思います。会員の皆さん「退職公務員連盟」という会をご存知ですか？特に、退職された先生等（公務員）なら誰でも知っている会です。しかし、偉そうなことを言う私も勘違いをしており、大変お世話になつていただけた先輩に仕事を手伝ってくれと言われ、その時に入つてないことが分かり、入り、3年が経過し、現在、副支部長兼組織部長です。財政に関しては、事務局員（支部長以下の役員）、会員、賛助会員の方々の支援・協力に支えられて運営されています。更には、年々会員の高年齢による退会もあり、益々、役員の成り手、財政難が課題となります。本来なら、都の前会長の「退職金もらつてている限りは会員であるべきである」という言葉を借りるならば、会員の減少や財政難は大きな課題とはならないと考えます。そこで、今後の中友会の展望を考えると、「中学校の校長として退職した限りは中友会の会員であるべきである」という意識を持つて、現役世代は、退職したら当たり前に中友会の会員になり、会の運営に支援と協力をしていくつてほしい。現会員には、会の運営に今まで同様、今後とも全面支援・協力をお願いするとともに会報をお読みいただいてお伝えしてほしいと思います。



【発行所】

中友会

港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条

●親睦
●互生
●生涯学習

<https://chuyu-kai.org/index.html>

会です。というよりも、退職と同時に入会し、当たり前のように一員として関わって来ました。退職年に先輩に声掛けいただき、幹事を3年させたが幹事として復帰し、現在その流れで今回幹事をする上では、バックアップしてくれる同期の仲間・先輩の支援・協力があるから頑張れるのです。ここで、退職公務員連盟「退公連」の課題を例に上げ、中友会の今後の展望を探つてみたいと思います。会員の皆さん「退職公務員連盟」という会をご存知ですか？特に、退職された先生等（公務員）なら誰でも知っている会です。しかし、偉そうなことを言う私も勘違いをしており、大変お世話になつていただけた先輩に仕事を手伝ってくれと言われ、その時に入つてないことが分かり、入り、3年が経過し、現在、副支部長兼組織部長です。財政に関しては、事務局員（支部長以下の役員）、会員、賛助会員の方々の支援・協力に支えられて運営されています。更には、年々会員の高年齢による退会もあり、益々、役員の成り手、財政難が課題となります。本来なら、都の前会長の「退職金もらつてている限りは会員であるべきである」という言葉を借りるならば、会員の減少や財政難は大きな課題とはならないと考えます。そこで、今後の中友会の展望を考えると、「中学校の校長として退職した限りは中友会の会員であるべきである」という意識を持つて、現役世代は、退職したら当たり前に中友会の会員になり、会の運営に支援と協力をしていくつてほしい。現会員には、会の運営に今まで同様、今後とも全面支援・協力をお願いするとともに会報をお読みいただいてお伝えしてほしいと思います。